明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　櫻井　弘
令和５年２月２０日
第１０号

自分で決める

副校長　美濃谷ひろみ

如月です。私立高校入試、都立高校推薦入試、発表があり、これまで培ってきたことを発揮する時期になっています。これまでに３年生は上級学校見学・体験等、判断材料を収集してきました。保護者の方々、友人、先生たちのアドバイスも踏まえ、受験計画を立て、書類作成・出願・試験に備えて励んでいます。勝負と決断の真っただ中、自分で決めた道を歩む皆さんを、周囲の人たちは応援し続けています。人に決められる、決めてもらうではなく自分が何をしたいのか考えて決めたからこそ、辛くても頑張れるのではないでしょうか。

目標を決めたら、それを実現するために具体的にどんな努力するか、そして、それをどのように継続するのか、計画が必要です。もう少し、具体的なことで考えてみましょう。では、「英語を話せるようになる」という目標があったらどのように努力したらよいでしょうか。

先日私は、英文記事と日本語のスタイルの違いについてのセミナーで、英字新聞の編集長さんのお話を伺いました。内容は次のようなものでした。

英語の書き方には日本語とは異なる表現の特徴がある。英語の表現力を高めるためには、単語・文法をはじめとした英語表現の特徴をしっかり学ぶこと、それに加えて「英語に触れた経験値」を高めることが重要である。

また、その方は著書の中でも、英語の会話力を高めたければ、たくさんの英語の会話例に触れること。「英語が話せるようになりたい」と言いながら、一方で「会話のサンプルにはほとんど触れていない」ということは、「ガソリンを入れていない車を走らせようとするようなもの」と書いています。さらに次のようなポイントを挙げています。英語を書けるようになろうと思ったら、まずはネイティブスピーカーの書いた英文を大量に読むこと。そうすることでライティングにふさわしい表現が身につく。「自分が英語を書くとしたら、この表現は使えるな」という視点をもつことが重要。そして、英語学習で最も大事なのは「継続」、最大の敵は「あきらめ」。この編集長さんは、継続するための「モチベーション」「やる気」の維持には「習慣化」と「成長の過程を楽しむ」ことが役立ったそうです。

皆さんにとってのモチベーション維持の原動力はどんなものですか？中学生の頃、私のモチベーション維持の原動力になったのは、１枚の１ドル紙幣でした。本物の紙幣から海外で生活する人々の様子を想像し、いつか必ず英語を使えるようになって外国に行く！と思っていつも視界に入ってくる場所に飾っていました。高校生の頃の原動力はデンマークの友人と文通することでした。自分の書いた英語が通じて、エアメールでのやり取りを続けられたことが、自分の世界を広げることにつながりました。

学習も生活も選択の連続です。「やらされる」ことではなく「自ら決めたことをする」そして「継続する」そんな体験を中学生の皆さんには積み重ねてほしいと考えています。「少し先の自分」「数年後の自分」はきっとあなたの願いに応えてくれることでしょう。

＊参考文献　高橋敏之著　2020　「英語最後の学習法」the japan times 出版